

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



ふくいCOC+事業終了にあたり、今後への期待

本事業は、文部科学省補助事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)として採択され、地方から東京圏への人口流出に歯止めをかけ、地(知)の拠点である大学が地域と一体となって、地域の雇用創出や地域就職率の向上等に取組むことを目的として、福井県内すべての4年制大学、県、産業界などが協働しながら、地域定着率10%UP及び雇用創出85名に繋がる取組を実施してきました。

大きな柱となった「Fスクエアでの共同講義」、「ふくい地域創生士®の認定等」、また各大学の専門性や地域課題を考慮し6分野を決定し取組んだ「特色人材育成」等があります。これらの取組の成果として、本事業の目標(KPI)であった5項目のうち、4項目は目標を達成し、文部科学省の中間評価でも42事業の内5大学に与えられたS評価(計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。)と評価されました。これらは地域企業関係者また連携大学関係者のご協力によるものです。

外部有識者による評価結果(令和元年12月実施)でも、高い評価を得ましたが、今後に期待する点も述べられておりましたので、これらの点も視野に入れながら事業終了後の継続について検討を進める必要があります。



令和元年9月に、福井県内高等教育機関の長と福井県知事の合意により、FAA(ふくいアカデミックアライアンス)が設立され、このFAA事業の一部として、来年度もCOC+事業で行ってきた授業の共同開講等々が継続されることも確認されており、現在準備も進められています。今後はこのFAAの中でCOC+事業で培われた知見・経験を生かして、地域に貢献する高等教育機関としての役割を果たしたいと考えております。

最後になりますが、本事業にご協力を頂いた、地域の方々、学生をはじめとする大学関係者に改めてお礼を申し上げますとともに、引き続きFAAでのご支援・ご協力をお願い致しまして、事業終了のご挨拶といたします。

ふくいCOC+事業推進協議会議長 福井大学長 上田孝典

令和元年度「ふくい地域創生士®」認定証授与式・「ふくい地域創生アワード」表彰式

令和2年3月3日ふくいCOC+教育プログラム開発委員会において、令和元年度「ふくい地域創生士®」として福井大学60名、福井県立大学13名、福井工業大学2名、仁愛大学3名、敦賀市立看護大学3名の計81名の認定、及び、「ふくい地域創生アワード」として福井大学3名、福井県立大学3名、敦賀市立看護大学1名の計7名の表彰が了承されました。今年度を含め、これまでに「ふくい地域創生士®」206名「ふくい地域創生アワード」11名の方が表彰されたこととなります。

ただ、例年合同で行う認定式等の一連の行事については、非常に残念ですが、今回の新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とし、大学ごとに授与することとしました。大学によっては授与式が4月以降となる大学もあるため、今年度授与できた時の様子の一部を掲載します。



1, 4・・・福井大学 2・・・福井工業大学 3・・・敦賀市立看護大学

【認定証・表彰状の授与を受けた皆様へのエール！】 (ふくいCOC+事業推進協議会議長メッセージ 一部抜粋)

「授与された皆さんにおかれましては、これまでの「地域での学び」を通して地域を理解し、愛着を持ち、地域を何とかしようとする志と、その力を持った皆さんが今後ともこのような気持ちを忘れることなく活動されることを心より期待しております。」

令和元年度ふくいCOC+事業推進協議会・ふくいCOC+事業評価委員会を実施

令和2年2月17日ふくいCOC+事業における、ふくいCOC+事業推進協議会を実施し、本事業の事業協働機関の代表者が一堂に会し、今年度の事業成果報告等を行いました。またCOC+事業評価委員会において事業に対する評価を行いました。

【第6回ふくいCOC+事業推進協議会】

令和2年3月に、COC+事業は文部科学省の補助事業としては終了となるため、今年度は、計画・予算の審議は行わず、事業実施内容、ふくい地域創生士等の申請状況とCOC+事業の継続についての報告および、COC+事業に関する諸規則の廃止についての審議を行い、了承されました。



【第6回ふくいCOC+事業評価委員会】

令和元年度事業実施状況および令和元年12月3日に行われた外部評価者による実地評価結果に基づき、自己点検・評価ならびに、外部評価の講評についての審議を行いました。また報告事項として、令和元年10月3日に「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」から、ふくいCOC+事業に示されました「令和元年度フォローアップ報告書」概要説明がなされ今後の対応・また所掌する分野等への展開についても意見交換がなされた後、了承されました。

なお、両者の会議において議長より、今までのご協力に対する謝辞と、事業の一部を引き継ぐ予定のFAA(ふくいアカデミックアライアンス)への協力要請がありました。

ふくいCOC+事業の振り返り・まとめ

本事業は、平成27年度採択でしたが、実質的には平成28年4月1日から令和2年3月31日までの4年間でした。準備段階を含めると、連携大学との協議は平成26年度から1年間かけて実施しており、(令和元年度末までに217回、うちテレビ会議システム25回)非常に緊密に意見交換し、具体的な施策・取組等へ繋ぎ実現してきました。

本事業のキーワードを大きく、次の4項目に分け、主要な事項で振り返ります。

① オールふくいによる実施：県内5大学連携による共同講義の開講

本事業とともに開設した、大学連携センターサテライトキャンパス(Fスクエア)において、福井県の環境・歴史・文化・産業等を学ぶ地域志向科目を、平成28年度から5大学で共同開講しました。大学ごとの授業時間が異なる等の課題も超え、本事業で整備した、双方向遠隔授業システムを活用し、平成28年度後期から各大学キャンパスにおいても双方向授業を実施し平成29年度には全5大学が科目を開講しました。

5大学共同開講科目の履修登録者数の推移(平成28年度～令和元年度)は、下表のとおりとなりました。

(人)

開講年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
履修登録者数	1, 263	1, 480	1, 799	1, 234
他大学受講者数	500	467	510	299
開講科目数	31	38	39	36

本事業開始前の単位互換者数(他大学受講者数)が、20名程度であったことを考えると、桁違いの高い実績が得られたこととなり、単位互換制度が実質化されました。

また、本補助事業期間終了後の令和2年度のFスクエアの運営、地域志向科目の共同開講を決定し、Fスクエア及び双方向授業について32科目(Fスクエア28科目、双方向授業4科目)開講することを、FAA教養共同化部門会議で決定しました。これらは、補助期間終了後ではありますが、県や各大学からの財源支援や地域からのゲスト講師による講義支援等により実施される予定で、学生を始め、関係者各位のご協力をお願いする次第です。さらに、科目の内容についても今後より充実化していくこととして検討を開始しています。

② 「ふくい地域創生士®」の認定・「ふくい地域創生アワード」の表彰

地域志向及び課題解決型科目を12単位取得し、地域でのインターンシップ等に参加した優秀な学生を「地域に貢献できる人材」として認定する「ふくい地域創生士®」として、計画より1年前倒して平成29年度に第1期生50名、平成30年度は第2期生75名、令和元年度に第3期生81名を認定して、累計206名となりました。

さらに平成30年度に、地域貢献に期待できる顕著な卒業研究成果等を表彰する「ふくい地域創生アワード」を新設し、平成30年度は4名、令和元年度は7名を選考・表彰しました。

なお、平成29年度に認定した第1期「ふくい地域創生士®」認定者50名の学生のうち、35名が県内に就職・進学し活躍を始めています。就職後1年を経過したOB・OGに対して、WEBアンケートを実施しました。

大学名	ふくい地域創生士®			ふくい地域創生アワード	
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
福井大学	31	57	60	3	3
福井県立大学	10	8	13	1	3
福井工業大学	5	2	2	0	0
仁愛大学	2	3	3	0	0
敦賀市立看護大学	2	5	3	0	1
5大学合計	50	75	81	4	7
	累計			累計	
			206		11

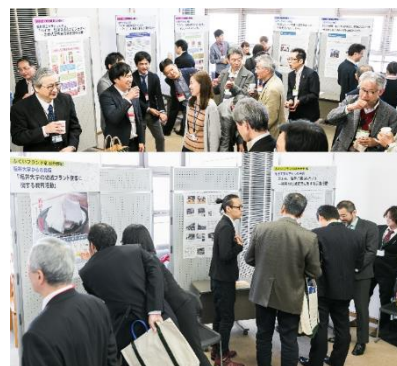
その結果、今後取得を目指す、“後輩へのエール！”の項目では、「地域に貢献できる『人財』になれるように頑張ってください」、「福井だけでなく他の地域について学ぶことも必要」、「地域共生社会の実現などの課題を考えるきっかけになっている。『なんとなく取得できそうだから』という理由ではなく『意志を持って取得』して欲しい」という声が聞かれ、この認定資格制度が、学生たちに与える教育的効果が改めて確認されました。

③ 特色6分野による人材育成と産業振興

本事業では、参加大学長、福井県知事、福井県商工会議所連合会会頭等をメンバーとする「ふくいCOC+事業推進協議会」を設置するとともに、「教育プログラム開発委員会」の下部組織として「地域志向科目・インターンシップ」「高大接続・留学生」ならびに「特色人材育成」の3部会を設け、さらに各部会のもとに10のワーキンググループ(WG)を設けています。

特に、特色人材育成部会では、地域で活躍する人材を地域と連携したプロジェクトから育成しようと、参加大学ならびに地域産業の強みや特色を活かし、地域の課題解決・雇用創出に繋げる分野として、①原子力技術、②ふくいブランド創出、③まちづくり、④バイオ・六次産業化、⑤国際・地域、⑥看護福祉の6分野を選定し、地域と連携した研究・活動を重点化しプロジェクトに取り組んでいます。

平成30年12月に3回目となる、特色人材育成部会の成果発表会を実施しました。全6分野において連携する全5大学の学生28名から17種類の活動発表がされ、さらに令和元年11月に開催したCOC+フォーラムでは、ポスターセッションを行い、6分野から10のプロジェクトが発表されました。



④ 事業協働機関との強力な連携体制(福井県・産業界等との協力)

本事業開始とともに事業協働機関等のご協力を得て、次のことへ繋がりました。

- 福井県による、Fスクエア講義教室の無償貸与・10WGに関連した補助金の創設
- 産業界・医療関係からのインターンシップの協力、ゲスト講師の派遣
- 学生地元定着を目指した企業・団体との「福井型『新採用学』研究会」の発足

結びに代えて、本事業に対する反省や期待を総括すると、成果は何だったのかを考えるにはあまりにも短すぎる期間であったと思います。社会へ出た「ふくい地域創生士®」は、第1期生だけですし、これからが大切なのではと思っています。大学だけではなく、小・中・高まで視野に入れた一貫した地域教育を考える必要もあります。

大学間・地域・行政等との連携を考えたとき、個々に何を行い、何を協働すべきなのかを過去にとらわれない形で検討・実施してゆく必要を感じます。即ち、COC+事業そのものが、ひとつの大学の枠を超え、地域と協働して行う事業でしたので、補助期間終了後も継続して、地域全体でその視点を共有し、乗り越える姿勢を期待したいと思います。(勿論まずは、大学構成員の意識改革が求められると思います。)

FAA(ふくいアカデミックアライアンス)について

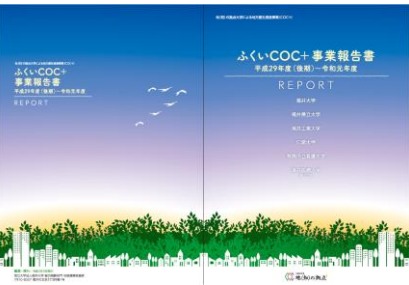
文科省によるCOC+事業の補助事業期間は終了しますが、ふくいCOC+事業では、その取組をFAAの一部として引き継ぐことを予定しております。令和元年9月27日に、県内8高等教育機関の長と福井県知事との協議により、FAA(ふくいアカデミックアライアンス)が設立され、以下の理念のもと福井県の教育のあり方・人材育成等について検討を開始しています。

【1】本県の将来を担う人材を育成する

【2】人口減少対策や、地域・産業の活性化、医療福祉、教育などの発展に寄与する

連携8高等教育機関をメンバーとして、4つの部会①入学者確保部会、②地元定着部会、③協働教育部会、④教養共同化部会を設けています。ふくいCOC+事業の取組内容が反映されているのは、「③協働教育部会」で、特色人材育成部会の継承を意識したPBL・共同研究等への福井県による補助金制度、さらに、「④教養共同化部会」では、Fスクエア及びTV講義での共同開講授業があり、令和2年4月以降も32科目開講が決定しました。

各種報告書等を発行！ ご協力いただきました皆様ありがとうございます！



「ふくいCOC+事業報告書」を発行(平成29年度(後期)～令和元年度)

事業全体の報告書としては2冊目となり、ふくいCOC+連携5大学の代表者による寄稿、また5大学連携WG長による活動報告も掲載しています。作成にあたり、多くの関係者から「地域の抱える課題や、地域を振興する新しい発想について、専門性の異なる各大学学生が混じり、多様な意見、アイデアをぶつける場を継続していきたい」という声が聞かれました。今後の検討で困難と思える場面があるかもしれませんが、その立場を超え、地域を担う人材の育成のため、可能性を探る議論がされ、これが終わりではなく新たな始まりとして、多くの光が差し込むことを願い、「夜明け」を表紙としました！

令和元年度「ふくいCOC+フォーラム実施報告書」

令和元年11月に開催されたふくいCOC+フォーラムの実施報告書がまとまりました。同志社女子大学の上田先生をお迎えしてのワークショップはタイトルの「プレイフル・クラッシュ」をまさに体感できる、これまでにないフォーラムとなりました。

また同時開催の特色人材育成部会によるポスターセッションでは、COC+事業が誇る珠玉の取組の数々をフォーラム参加の県内企業関係者を中心にアピールする機会となり、会場は熱気に包まれました。その感動と興奮を是非ご堪能ください！



「福井型『新採用学』研究会」REPORT2019

“採用学が、「これから」を変える。福井の未来をつくる。”ということで平成29年度に発足したこの研究会も3年目となり、最終年度となります。福井県内の企業や自治体、また各種団体には、大変厳しい採用環境が続きますが、福井型「新採用学」研究会で得た知見がこの困難を乗り越える一助になれば幸いです。

「Fスクエアリーフレット」を更新：ふくい地域創生士®を大きく紹介

令和2年4月に5周年を迎えるFスクエアは、特色人材プログラムなど様々な大学連携事業の拠点として定着し、令和元年度は延べ1.3万人の学生・教職員の方に利用いただいています。最近では、学生起業家のミーティングなど大学と地域をつなぐ役割も高まっています。

リーフレットでは、「ふくい地域創生士®」を大きく紹介。認定を得た先輩のメッセージを掲載しています。ご覧になったみなさんが、将来、この福井で「地域に貢献できる人材」として活躍されることを期待すると共に、Fスクエアが末永く親しまれるよう、引き続きのご支援をお願いいたします。



(福井県大学私学課より寄稿いただきました)

編集後記

本号は42号となり最終号となります。当初この事業は、各大学の垣根を超えられるかどうかが一番の課題であり、実際のところ「山あり、谷あり」の部分もありましたが、関係者の皆様のご協力を得て、ほぼ計画通り取組むことが出来ました。

このマンスリーレターも3年半、毎月手作りで発行出来たのも、皆様のご協力の賜物です。これからの日本の少子化・地域経済の縮小の中では、地域高等教育機関の連携・地域との協働は避けれないと思います。この事業がその端緒であり、継続されることに想いを込めて、最後の編集後記といたします。有難うございました。(舟木・スタッフ一同)

【発行者】福井大学 総合戦略部門 地域連携推進課 〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号 Tel: 0776-27-9945

E-mail: coc-p@mli.u-fukui.ac.jp ホームページ(HP): <http://www.allfukui-cocp.jp/>

なお、上記HPIについては、令和2年4月中旬以降、FスクエアHPとしてリニューアルされます。

COC+事業のHPIについては完全閉鎖ではなく、一部をアーカイブ化し、マンスリーレターや各種報告書を中心に次のアドレスにて引き続き公開していく予定です。→ <http://chiiki.ad.u-fukui.ac.jp/cocp/>

【お願い】本稿記載のメールアドレスについては、※部分を「@」に変えてお送りください。

